

第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ①

「日韓高校生交流キャンプでの経験を活かすために」

島子 莉緒

福岡雙葉学園高等学校 1年



私はこのキャンプを経験して今まで狭い世界しか知らなかった分、自分の視野が広がりました。

私はこのキャンプに国際交流目的で参加したのですが、同じ班の人と自分たちで事業を考えていくと班のメンバーの数だけ沢山の気づくことがあり、その分だけ自分たちの事業案がどんどん深いものになっていくのを感じることが出来ました。私がこのキャンプで得たものは大きく、高校を卒業し、大学に進学し、就活し、就職して、大人になってもこの経験は私の人生において強みになり、そして、励みになると思います。そして、私が大人になっても日韓高校生交流キャンプでの経験はいい思い出になると思います。

私が日韓高校生キャンプで一番心に残ったことは、発表したことではなく、前日に徹夜しながら発表の準備をしたことです。もちろん発表して人気賞をとったことは、とてもすごいことでとても光栄なことでしたが、私が家に帰ってこのキャンプを思い

出すと目に浮かぶ光景は、やっぱり男子の部屋で集まり、みんなでわいわいしながら、あるかどうかわからない資料をスマートフォンで検索したり、発表で使うクイズ内容やQRコードを作ったりしたことです。アイデアが浮かばず眠気がくると、例えば、米津玄師さんの lemon や防弾少年団など日本人も韓国人も知っている曲をながして気分転換をした時間が一番楽しかったです。気分転換をすると、切り替えをしっかりと集中することができ、日頃の勉強にもとりいれようと思います。

今回のキャンプで、私の反省点はたくさんあります。まず、私は韓国語を勉強してこなかったのが韓国人の友達とも日本語でずっと話していたことです。私が小学生のころにハワイと台湾でホームステイをしたときは現地の言葉がわからず不安になっていたのに韓国人の友人のことを考えていなかったと後悔しています。

また、発表の準備をするときも私にできることが少なく、みんなのことを手伝え

なかったので、いつかこのような機会があるときのためにパソコンをうてるようになることやアイデアを積極的にだすよう頑張ろうと思いました。みんなで頑張ったからこそとれた人気賞ですが、私にもう少しできることがあればみんなを早く寝かせてあげることや内容をもう少し深めることができたのではと後悔しています。

そして、私が高校一年生だからと先輩方にまかせていたので私が高校二年生になる前までに任せずに自分の事だけでなくみんなに気を配れるよう成長していきたいと思っています。

だから、私は日韓高校生交流キャンプでの経験や反省点を自分の強みに変え、大人になっても大切な思い出にしていきたいです。とっても疲れたしとっても頑張ったからこそ、その分自分にとって楽しい思い出や将来強みになる経験として心にのこることがとても嬉しいです。

このキャンプはものを知らない小学生や

多くを知りすぎて政治や偏見をもちだす大人ではなく、ある程度歴史や文化を学んだ私たち高校生にしかできないキャンプであると思います。そして、このキャンプを経験した私たちは成長し、大人になってもこの経験を大切にし、将来に活かせるよう努力すべきだと思います。

このキャンプで、みんなで考えたビジネスプランはすべて平和でグローバルなもので高校生が考えたとは思えないくらいしっかりしていて現実的なもので人の心情やメリットや利益など大人でも難しいことを五日間で九人のメンバーとよく考えることができたと思います。

これから私たちが社会にでるときには色々なことが要求されます。そのために私たちが身につけておくべきことは積極性やグローバルな社会に対応できることです。そのために私はこの経験を活かしていきたいです。

「最高の仲間との出会い」



大沼 悠希

山形市立商業高等学校 2年

第25回日韓高校生交流キャンプは、私の人生に大きな影響を及ぼすことは間違いないだろう。キャンプが終わって時間が経った今でも、あの時の記憶が鮮明に蘇る。今回の濃い五日間のおかげで、色々なかけがえのないものを得ることが出来た。

私は、学校の韓国語の先生を通して、このキャンプと出会った。「今必死に勉強している韓国語を上達させたい。」「韓国の学生と交流してみたい。」という思いがあり、応募した。応募の時に書いた作文は、何回も添削をしてもらい、頑張ったのを覚えている。

参加決定の電話が来たときは、とても嬉しかった。そこからは、事前説明会に参加したり、学校の先生に頼んで授業外で韓国語を勉強したりと、準備を進めた。キャンプの日が近づくにつれて、期待がだんだん大きくなっていった。

この五日間は、驚くほどにあっという間だった。それは、仲間と共に充実した時間を過ごせたからだと思う。そして、この時間が生み出したものは、チームメイトの強い絆だ。最初はお互いに馴染み切れなかつ

たが、最終日には、別れを惜しんで涙を流すほどの関係になっていた。

私たちのチームには、韓国語と英語を話せたり、韓国語と日本語を話せたりと、自国語以外に話せる言語がある人が数人いたためか、事業案の話し合いは割とスムーズに進んだ。みんなそれぞれ意見を出し合い、いいものができるように全力を尽くした。事業案づくりは、深夜4時過ぎまで続いた。

結果としては、賞は何も取れなかったが、作る過程で、互いにコミュニケーションをとっていく中で学んだことが多かったように思う。

最後の夜。みんなでお菓子をもち寄り、トランプで遊んだり、語り合ったり、チームメイトが作ってくれた激辛ラーメンをみんなで食べたり、写真を撮ったり、みんな寝不足になりながらも、本当に楽しい時間を過ごした。

別れの時は、皆号泣だった。何回も何回も再開の約束をした。この出会いを、一期一会にはしたくなかった。この時に、ほんとうに幸せな時間だったと実感した。

帰路につき、駅の改札を通過して一人になった瞬間から、寂しさを感じた。広島から離れたくなかった。新幹線に揺られながら、チームメイトが書いてくれたメッセージを読んだ。ひとりひとりの顔が浮かんできて、「終わったんだなあ」という実感がわいてきて切なくなった。

今まで通りの生活をしていると、「元気かな、会いたいな、」と思う事がある。そう思

える仲間ができたのは、人生初かもしれない。25期生のみんなに出会えて、本当に良かった。必ずまた会おう！

最後に、このキャンプに関わってくださったすべての方々、日韓両国のみんな、そして、苦楽を共にしたチーム8のみんな、本当に本当にありがとう！！心から感謝しています。

「최고…!! (最高…!!)」



萩原 万奈

慶應義塾女子高等学校 3年

普段目を向けることのない学校の掲示板。ふと顔を上げると「日韓」の文字が私の目に飛び込んできた。KPOPにハマっていた私は迷わずパンフレットを手を取った。次の日には先生から応募用紙を受け取って、期限ギリギリになりながらも深夜二時までかけて書き上げた作文を提出したのが懐かしい。

全国で40名しか選ばれないということ。口では「絶対無理」と言いつつも、心の中ではいつも期待していた。そんなわけで私を参加者に選んでいただいたという内容の電話があったことを駅のホームで母からの電話で知った日には天にも昇る心持ちだった。どうしても参加したかったキャンプだったばかりに、通ったからいい、のではなく、選んでいただいたからには一生懸命に活動して貢献しなければという思いが強かった。

キャンプへのカウントダウンの期間に私はどのような立ち位置で貢献できるだろうかということを考えていた。起業することに興味があるわけでも日韓の経済分野に特別関心を寄せているわけでもない私が他の人よりも特別知識を備えているとは考えにくかった。付け焼き刃の知識は役に立たな

いかかもしれない。私はずっと悩んでいたが、キャンプは待ってくれなかった。

キャンプ当日。台風がこれまでに前例のないコースをとり、東京から広島へ向かった私はまさにそのコースを新幹線で辿ることになってしまった。案の定、広島の上には暗雲が立ち込めていた。韓国からの学生達の到着も予定より遅れ、1日目に訪れる予定だった原爆ドームも2日目に延期されるなど、私の期待とは裏腹に不安なスタートを切ることになった。

そんな当初の不安をよそに、キャンプは充実し、あっという間に過ぎて行ってしまった。多分キャンプに参加した学生全員があまりの時間の流れの速さに名残惜しさを感じていると思う。事業計画を進めるための話し合い、意見が少しぶつかったアイテム決めの討論、チームのメンバーとの休み時間の他愛のない会話、産業・ビジネスの現場の見学、そのどれを取ってもひとつひとつが本当に濃かった。

私のグループはものづくりのカテゴリーで、事業計画はAI搭載の電気自動車とそのプロモーションが主だった。マツダの工場

を2日目に見学したその直後から事業計画の話し合いが進められたが、アイテム決めが難航して3日目の午前中までもつれ込んだため実質3日目の午後からの時間だけで完成させたことになる。

原稿の準備をしたり、練習をしたりしているうちにどんどん夜は更けていき、結局寝たのは朝の四時だった。それでも全然苦にならなかったのは、皆で持ち寄りたり近くのコンビニでたくさん買い込んだりしたお菓子やインスタントラーメンを食べながら和気藹々と進めていけたからではないかと思う。事業計画の話し合いの間にも互いの言語を教え合ったり休み時間にはお互いの国のゲームをしたりした。寝る時間ごとにかく惜しかった。

私たちのグループは最終的にチームワーク賞を取ることができて、全てが報われた。6チームの名前が呼ばれて、명인(ミョンイン)と2人肩を組んで笑いあいながら前へ走り出た時の幸福感は忘れられない。皆で最後まで頑張った私たちにはぴったりの賞だった。

キャンプ前に悩んでいた立ち位置を私は予想以上に良く全うすることができたように思う。チームの全員とよくコミュニケーションを取り、皆の意見に耳を傾けてそこから新たな提案をすることが本当に楽しく、特に目標を意識することなく自然に行うことができた。自分にできることがあればなんでも取り組み、その中で自分よりそれが得意な人がいればその人に任せて自らはそ

のアドバイスやブラッシュアップの方に回る。そんな立ち位置だったと思う。

最後にメンバーから書いてもらったローリングペーパーには、「まなのおかげでチームが成り立ったと思う」「リーダーシップが頼りになってかっこよかった」などと書いてもらえて一生懸命に取り組んでよかったなと自己満足にとどまらない本当の意味での達成感を得ることができた。全身全霊で取り組んだ者だけが与えられる感動を知ることができた。

始めは人生初のアジア圏の外国人ということもあってコミュニケーションが成立するのか、5日間も話題が持つのか、韓国人は日本人が好きではないのではないのかなど不安に思うことがたくさんあったけれど、全てが杞憂だった。日本語がかなり堪能な韓国の学生はたくさんいたし、日本語と韓国語でダメなら英語を使えばほとんどの場合通じた。もとをただせば同年代の高校生同士で五日間も朝から晩まで共に過ごせば仲良くなれないはずもなかった。別れ際は本当に名残惜しくてメンターさんに抱きしめられながら泣いてしまった。キャンプが終わった今でもLINEの通知が鳴りやまない。

私は今月末(8月)に韓国を訪れる予定なので、そこでまた会おうと6チームの子と約束をした。また皆で集まれる日はそう遠くはないだろうと確信している。このような一生ものの出会いを与えてくれたこのキャンプには感謝してもしきれない。あの

時応募を決意して期限が迫る中、作文を仕上げた自分にも「よくやった」と言ってあげたい。

みんな本当にありがとう！！

